

事務事業名	乳幼児保健事業(栄養関係)					事務事業No.	342 - 17						
1. 基本情報													
担当部	担当課		担当係		作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名					
こども未来部	こども家庭課		母子保健係		主事	山口 萌	課長	野見山 真理					
施策体系	総合計画	政 策	3	健康・子育て									
		施 策	4	子育て支援の推進									
		基本事業	2	妊娠・出産・子育ての一貫した支援の充実									
	その他の計画		個別計画		—								
根拠法令・条例・要綱等		母子保健法第14条											
事業開始年度	令和5年度		事業終了年度		未定		事務事業類型	義務的事業（市に裁量の余地があるもの）					
実施手法	全部直営		補助金等の支給		なし		実施計画期間	—					
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）													
概要	具体的な離乳の進め方を指導することにより、母親の不安を軽減し、子どもの発達にあった離乳食を進められるように促す。また、離乳完了後のフォローとして、幼児とその保護者に対して講話や調理実習を行い、生涯にわたって健全な食生活が実践されるよう支援する。												
対象	働きかける相手・もの	離乳食教室：生後4か月～離乳完了期の乳児の保護者 キッズキッチン：離乳完了期後の幼児と保護者											
手段	方法・働きかけ（活動指標）	離乳食教室：個別相談、集団教室 キッズキッチン：乳幼児の食生活についての講話、調理実習											
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	離乳食教室：母親の不安を軽減し、子どもの発達にあった離乳食を進められるよう促す キッズキッチン：生涯にわたって健全な食生活が実践されるよう支援する											
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）													
指標名		単位	指標の説明（算式等）			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
離乳食教室の実施回数		回	今年度離乳食教室の実施回数			12	11	12					
キッズキッチンの実施回数		回	今年度キッズキッチンの実施回数			3	3	4					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）													
指標	離乳食教室参加数	単位	達成目標値		目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		組	96			96	253	276					
説明	今年度離乳食教室に参加した組数	方向性	達成目標年度		実 績	36	177						
		増加	毎年度										
指標	キッズキッチン参加数	単位	達成目標値		目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		組	18			18	36	32					
説明	今年度キッズキッチンに参加した組数	方向性	達成目標年度		実 績	22	28						
		増加	毎年度										
指標		単位	達成目標値		目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込					
説明		方向性	達成目標年度		実 績								
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）													
経費区分	一般会計 経常経費				特別会計	—							
予算科目・事業	会計	1 一般会計			款	4 衛生費		項	1 保健衛生費		目	3 健康づくり推進費	
	大	3 母子保健事業費			中	3 乳幼児保健事業費		他	0 事業				
投入人員 （当該事務事業に 対して1年間に投 入した人員）	(R2以降)	前年度実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由（10%以上の場合）			次年度予算(千円)				
	正職員	0.00	人	0	0.35	人	2,851	令和6年度より、正規職員配置、 集団教室再開による託児謝礼金 要求のため増額	0.46	人	3,747		
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	会計年度 1級フル	0.10	人	293	0.00	人	0		0.00	人	0		
1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00		人	0			
2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0				
人件費計（A）		293		2,851					3,747				
事業費	直接事業費（B）	98		193					905				
	総事業費（A+B）	391		3,044					4,652				
直接事業費のうち の主な歳出内訳	報償費	0		92					729				
	需用費	98		102					176				
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0		0					0				
	国・県支出金	0		0					0				
	市債	0		0					0				
	一般財源	391		3,044					4,652				
	その他（ ）												

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	生涯にわたる健康の維持・増進のために、離乳食および離乳完了後の支援を市で行うことは妥当である。
効率性 評価	高い	乳幼児保健事業であり、離乳食および幼児食に関する相談を気軽に受けられるように参加費を無料としており、効率性は高いといえる。
有効性 評価	高い	市民の健康を守るのは市の基本事業であり、健康の維持・増進には正しい食習慣の普及は欠かせないため有効である。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	SNSを活用した周知や、市公式LINEにおける予約の開設、集団教室の開催を行ったことで、参加者数が増加した。 より多くの対象者へ実施すること、母親同士の仲間づくりを目的として、離乳食教室において個別相談だけでなく、集団教室を実施するために、材料費および託児謝礼金を確保した。
一次評価	拡充		
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	
	拡充		
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
ポスターやチラシの設置、広報だけではなく、SNSを活用した周知を行うことができた。予約方法については、市公式LINEから予約できるようにしたことで、			

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成果〕	離乳食教室については、個別相談に加えて集団教室を実施することで、よりニーズに合った教室を実施することができた。キッズキッチンについては、集客が見込める夏休み期間に合わせて3回実施することができた。
〔課題〕	どちらの教室も参加者が前年度に比べて増加したが、今後はSNSの活用など、現代の保護者に受入れやすい教室の開催方法や市のマンパワー不足の解消に向け、民間事業者による教室運営などを検討する必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕 今年度、周知方法や予約方法の見直しを行ったことで、参加数が増加したため、現状維持とする。
現状維持	
コスト投入の方向性	〔理由〕 教室のあり方について、根本的に検討する必要があるが、コストは現状維持とする。
現状維持	
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	前年度と比較し、参加数は増加しているが、目標値（定員）を達成できていないため、チラシやポスターなどの広報媒体をより見やすいものに改善していく必要がある。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	今後の教室のあり方によっては、コストの増減が見込まれる。

評価変更理由	成果の方向性	インターネットでレシピを検索できる状況を考慮し、市が直営で実施する優先順位が低い教室（離乳食教室）は廃止や統合を検討すべき。直営で実施すべき教室を精査する必要があることから方向性は縮小。 直営で実施する教室を減少させることにより、コストは縮小。
	統合・縮小	
	コスト投入の方向性	
	縮小	